

第3次阿蘇市総合計画

基本構想 2025▶2033

前期基本計画 2025▶2029

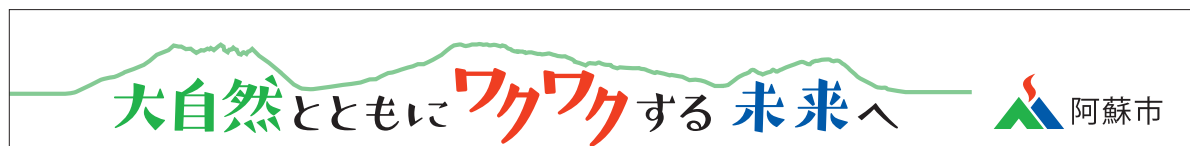
第2部

基本構想

02

第1章

将来都市像



1. 第2次阿蘇市総合計画の総括

第2次阿蘇市総合計画(平成29年度(2017年度)から令和7年(2025年度)9月)では、「人がつながり 創りだす 新しい阿蘇 ～ONLY ONEの世界へ～」を将来都市像として掲げ、平成28年(2016年)の熊本地震や阿蘇中岳火口の爆発的噴火など、災害からの早期復旧・復興を基本目標の「重点テーマ」(最優先事項)と位置付け、官民一体となって全力を傾けるとともに、将来都市像の実現のため「5つのチャレンジ」に沿って、体系的に政策を推進してきました。

また、計画期間中には新型コロナウイルス感染症の流行という世界規模での大きな危機にも直面し、社会経済活動や日常生活の制限がありましたが、感染症防止対策に取り組むとともに、国の経済対策に加え市独自の支援事業を展開しながら、アフターコロナを見据えた取組も進めてきました。

【基本目標ごとの主な取組実績】

■災害からの早期復旧・復興(重点テーマ)

- ◇阿蘇山直轄砂防事業の実施(10年間で256億円の事業費)
- ◇国道57号北側復旧道路の整備
- ◇阿蘇山火口二次避難休憩施設整備
- ◇新たな火口見学エリア(Eゾーン)整備
- ◇熊本地震復興基金を活用した事業の実施ほか

- ・仙酔峡駅舎解体事業
- ・豊肥本線復興エリア活性化推進事業
- ・阿蘇復興ちようちん祭への支援
- ・戸建て木造住宅耐震改修等事業
- ・危険ブロック塀等安全確保支援事業

①「強い経済基盤の確立へのチャレンジ」

〈産業・経済〉

- ◇阿蘇アドベンチャーワールド創造事業
- ◇宿泊割引キャンペーン事業
- ◇教育旅行・スポーツ合宿支援
- ◇オーバーツーリズム※17 未然防止対策事業

※17 オーバーツーリズム…特定の観光地に観光客が過度に集中することで、地域住民の生活や環境に悪影響を及ぼす現象のこと。

- ◇企業向けサテライトオフィス※18 開設
- ◇移住定住支援センター開設
- ◇プレミアム付き商品券事業
- ◇新規就農者支援事業
- ◇中山間地域等活性化推進事業
- ◇有害鳥獣被害対策事業
- ◇更新基盤整備事業
- ◇大野川上流地区農業用排水路整備
- ◇農村環境改善センター改修
- ◇森林整備事業
- ◇耕作放棄地解消事業(耕作放棄地有効利用促進事業) ほか

②「豊かな教育環境・教育力へのチャレンジ」〈教育〉

- ◇ICT※19 教育環境の整備
- ◇ICTを活用した小中学生プレゼンコンテストin SDGsの開催
- ◇1人1台タブレット端末を活用した「心の健康観察」調査研究事業
- ◇阿蘇小学校・波野中学校屋内運動場改修
- ◇市内全中学校(3校)体育館及び阿蘇体育館のエアコン設置
- ◇学校給食食材費等助成事業 ほか

③「健康で安心なまちづくりへのチャレンジ」〈人権・健康〉

- ◇熊本保健科学大学・阿蘇中央高校との協定による高齢者体力測定事業
- ◇带状疱疹ワクチン助成金事業
- ◇不妊(不育症)治療費助成事業
- ◇阿蘇保健福祉センター・一の宮高齢者センター大規模改修
- ◇阿蘇市子育て支援センター移設(三久保→乙姫)
- ◇子ども医療費の窓口無償化機関の拡充
- ◇こども家庭センター開設
- ◇病院事業での各種専門外来等診療科の充実と政策医療提供体制の確保 ほか

④「快適で良質な基盤づくりへのチャレンジ」〈建設・環境〉

- ◇防災行政無線デジタル化事業
- ◇お知らせ端末更新事業
- ◇一の宮駐在所の整備
- ◇乗合タクシー利便性向上
- ◇市営住宅赤水西団地・坊中南団地建設工事
- ◇阿蘇中部地区広域農道整備 ほか

※18 サテライトオフィス…(オフィスの管理主体や活用形態を問わず)都市部の企業等が本拠から離れたところに設置する遠隔勤務のためのオフィスの総称。

※19 ICT…Information & Communications Technology: 情報や通信に関する技術の総称。

⑤「将来に向けた市政改革へのチャレンジ」

〈地域・自治〉

- ◇内牧支所窓口音声受付発券機導入
- ◇税等のコンビニ収納サービス導入
- ◇自治体情報システムの標準化
- ◇基金残高の増、起債残高の減
- ◇危機管理監の配置
- ◇地域おこし協力隊の設置
- ◇マイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスの導入 ほか

第3次阿蘇市総合計画では、時代の変化を読み解き、市民の皆様がこれまで以上に「住んで良かった」と実感できるまちづくりを、スピード感を持って進めていきます。



阿蘇山火口新展望エリア（Eゾーン）



阿蘇山火口二次避難休憩施設

2. 第3次阿蘇市総合計画について

本市を取り巻く社会情勢は第2次総合計画の策定時から大きく変化しており、少子高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響など、地域社会が直面する課題はより多様化・複雑化しています。

第3次阿蘇市総合計画においては、新たな将来都市像「大自然とともに ワクワクする未来へ」を掲げ、さらなる発展を目指します。「人とひと」「人と自然」「人と文化」のつながりを基盤とし、そこから生まれる「力」を活用することで、地域の活力を高め、あらゆる分野におけるまちづくりの新たな挑戦へと結びつけます。このつながりは、市民同士が助け合う仕組みや地域での活動を盛り上げる取組、

世界に誇る本市の自然や文化を守りながら活かしていく取組、異なる文化の人々が一緒に暮らせる環境づくりなど、様々な形で進められます。これらの取組が、ワクワクする将来のまちの姿を実現する力となります。

「大自然とともに ワクワクする未来へ」という将来都市像は、本市が持続可能な地域社会を築くうえでの羅針盤となります。この将来都市像のもと、市民一人ひとりが主体的にまちづくりに参画し、行政や企業とともに力を合わせることで、地域全体の活力を引き出し、新しい本市の未来を切り拓くことを目指します。

3. 第3次阿蘇市総合計画における横断的な取組

本計画では、将来都市像の実現に向け分野別に目標を設定しています。横断的な取組とは、複数の分野にまたがる課題や施策に対し、全庁的かつ広域的に協力しながら進める取組のことです。

(1) 定住人口、関係人口、交流人口など阿蘇市にかかわる全ての人々の増加に向けた取組

本市の人口は長期にわたり減少傾向にあり、令和2年(2020年)には24,930人にまで落ち込んでいます。今後、少子高齢化の進行とともに、地域経済の縮小やコミュニティ維持

に対する課題が一層深刻化することが予想されます。こうした状況を踏まえ、本計画では、定住人口の増加にとどまらず、関係人口^{※20}や交流人口の創出拡大にも視野を広げ、本市と多様に関わる人々との裾野を広げていきます。具体的には、経済振興、子育て支援、福祉充実など複数の分野にまたがる横断的な施策を展開し、移住・定住促進や二地域居住^{※21}、本市への関心を高める取組などにより、持続可能なコミュニティ形成を目指します。

※20 関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光にきた「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す。

※21 二地域居住…主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点(ホテル等も含む。)を設ける暮らし方。

（2）半導体関連企業集積及び中九州横断道路 開通促進による経済波及効果の取込みと 環境保護

菊陽町を中心に、半導体関連企業の集積が進展しており、特に台湾の半導体受託製造企業の進出は、本市経済に大きな効果を与えるものと期待されています。加えて、中九州横断道路の開通は、本市の人流・物流の活発化、他市町村とのアクセス性を高め、産業誘致や観光振興においても大きな可能性をもたらします。この波及効果を積極的に取り込むため、インフラ整備の充実、人材育成、雇用創出など、各分野と連携した横断的な施策を推進します。さらに、半導体関連企業の発展に伴い、地下水の利用が重要な課題となっているため、阿蘇地域における地下水の涵養や水資源保護についても、各種関係者と連携し、持続可能な管理体制を構築していく必要があります。

（3）自然と農業に根差した世界文化遺産登録 を見据えた持続可能な観光地づくり

本市が有する独自の自然景観と歴史文化、そしてそれらと共生してきた伝統的な農業の営みは、世界に誇る観光資源です。世界文化遺産の登録が実現することで、観光産業の発展にとどまらず、市民の地域への誇りや愛着の醸成や地域活性化、文化交流の促進など、多方面にわたる好影響が期待されます。本計画では、世界文化遺産登録推進を足がかりとして、観光インフラの整備や地域資源の持続的な活用、さらには地域住民が主体的に関わる観光振興策などを横断的に展開し、次世代に継承できる持続可能な観光地づくりを目指します。



国道 57 号北側復旧道路